かね岩海苔 工場増設

22年操業 増産と震災対策

高知みなみ団地

食用のり製造の「かね岩海苔」（高知市池、岩崎定之社長）が、高知みなみ流通団地の本社工場北側に新工場を増設する。好調な需要を受けた増産と南海地震対策が目的。本社南東の区画（約3200平方㍍）も取得し、倉庫と駐車場に活用する。

同社は1985年創業。2004年に現在の本社工場、13年に同じ団地の高台に南国工場を建設した。

主力の味付けのりは全国トップ級のシェア。南国工場建設後は県外量販店のプライベートブランドも手掛けるようになり、13年3月期に16億5千万円だった売上高は、19年3月期に35億4200万円に増加した。

岩崎社長によると、16年の熊本地震を機に津波だけでなく地震の揺れに備える必要性を感じ、築年数が経過した本社工場の改装を検討していたという。近年の好調な売り上げを受けて計画を具体化した。

新工場は鉄骨3階建て、延べ床面積約4千平方㍍。1階を倉庫、2階を事務所と原料保管用倉庫、3階を工場とし、製造ライン4～5本を入れる。出荷額は約10億円の増加を見込む。新規雇用は操業開始1年目で20人、フル操業時50人を目指す。

投資額は11億150

0万円で、県の企業立地促進事業費補助金約2億3300万円を充当する。22年6月の操業開始を予定している。

岩崎社長は「価格ではなくおいしさで選ばれるのり」がモットー。すでに来春入社11人の内定も出した。社員の安全も守りながら、10年後に売り上げ50億を目指す」と話している。

（竹内悠理菜）